

eRad Folder: Previous Doc Next Doc Go to Doc#
First Hit1

Page: Entry 3 of 6

File: 0208

Doc 4, 1377

DOC-NO: J1409268100A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02086493 A

TITLE: DIAGNOSTIC SET FOR RECOMMENDATION OF MERCHANDISE

EDWARD-DATE: November 8, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME:

RESID, K101710

ADDRESS:

INT-TO: (IPC): G06F 7/04; G09F 3/20

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a diagnostic set for recommendation of merchandise which allows the rapid selection and recommendation of the exact merchandise meeting the customer's requirements from plural pieces of the merchandise having approximate efficiency by such a method satisfying the customer's desire as well.

SOLUTION: A theme display sheet A which consists of a cardboard 1 and 1a displays with 12 pieces of themes 2 formed by extracting 4 pieces each per one kind of foundation in random arrangement on its front surface, a transparent pressure sensitive discoloration sheet B set in such a manner that a pressed part discolors when pressed from a front surface side and the discoloration disappears and the original state is restored when this sheet is pulled from the theme display sheet A and a transparent merchandise specification sheet C which is provided with theme check parts 10 in the position respectively superposed on the display positions of the respective themes 2 of the theme display sheet A visible through the pressure sensitive discoloration sheet B and is attached with symbol rings 11 having the efficiency capable of selecting the themes and indicating the kinds of the foundations in the respective theme check parts 10 are combined.

COPYRIGHT: (C)1997, JPO

Previous Doc Next Doc Go to Doc#

特開平9-288453

(43)公開日 平成9年(1997)11月4日

(51)Int.Cl. ⁴ G 0 6 F 3/29	発明の名称 F I G 0 6 F 3/20	5/04 3/20	5/04 3/20	技術表示箇所 A
---	---------------------------------	--------------	--------------	-------------

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

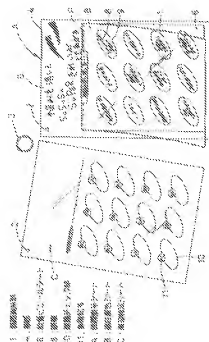
(21)出願番号 特願平8-191265	(71)出願人 000000052 銀紡株式会社 東京都墨田区錦田五丁目17番4号
(22)出願日 平成8年(1996)4月23日	(72)発明者 上野 幹也 神奈川県川崎市中原区小杉町1-520-23 …区3
	(74)代理人 弁理士 西郷 征彦

(54)【発明の名称】 商品識別用貼紙セット

(57)【要約】 (既正有)

【課題】 効能が近似する複数商品から、顧客のニーズに合った的確な商品と、相対的に、しかも顧客の流動性をも満足させるような方法で選択し、推薦することのできる商品推薦用貼紙セットを提供する。

【解決手段】 専断的であり、その表面に、ファンダーシェン・部類につき4個ずつ抽出してなる12個の弾頭部が、ランダムな配置で表示された認識表示シートと、表面側から押印を受けるとその弾頭部が紫色し、認識表示シートAから剥がれると上記紫色が消えて元に戻るよう設定された透明の感圧変色シートBと、上記感圧変色シートBを透かして見える識別表示シートCの各弾頭部との表示位置とそれぞれ異なる位置に識別チェッカー部Dが設けられ、各識別チェッカー部Dに、その識別を補助しうる効能を備えたファンダーシェン・部類を収めた識別シートEがそれぞれ付されている透明な商品特定シートFとを組み合わせた。



【発明の要旨】

【課題】 効能の異なる複数の商品のうち、いずれか一つを選択するために用いられる商品価値判断シートにおいて、操作性からなり、その表面に、上記複数の商品のそれぞれの効能によって解決し得る改善される課題を、商品一毎につきα（αは正の数）個ずつ抽出してなるβ個の課題が、ランダムに配置で表示された課題表示シート（A）と、上記課題表示シート（A）の課題表示部に重ねられ、課題部から押圧を受けることで課題部が変色し、課題表示シート（A）から裏がえれると上記変色が消えて元に戻るよう設定された透明な遮圧変色シート（B）と、上記課題表示シート（A）に重ねられた遮圧変色シート（B）の上からさらに重ねられ、上記遮圧変色シート（B）を透して見え入課題表示シート（A）の各課題の表示位置とそれぞれ異なる位置に課題チェック部が設けられ、各課題チェック部に、その課題を解決し得る効能を備えた商品の種類を示す象徴記号がそれぞれ付されている透明な商品特定シート（C）とからなることを特徴とする商品価値判断シート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、効能の異なる複数の商品の中から、顧客のニーズに合った商品を選択し得るために用いられる商品価値判断シートに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来から、化粧品販売では、専門の販売員が、店員あるいは訪問販売で、化粧品メーカーから配られた化粧品販売用情報シートにもとづいて顧客に化粧品の売り込みを行っている。上記化粧品販売用情報シートは、通常、長方形の厚紙もしくは薄いプラスチック板からなるシートの表面に、化粧品の種類とその使用方法を模式的に印刷したもので、販売員は、まず顧客の肌や状態を診断し、その結果に応じて、最適な化粧品を推奨するとともに、このシートを顧客に提示してその使用方法を説明する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、メーカーが多様な化粧品の販売し、各メーカーがそれぞれ独自の構造と内容の化粧品販売用情報シートを用いて販売促進をしている現状では、化粧品自体の独自性により、顧客に対していかに好ましい印象を与えることができるかの顧客の購買力を引き出す大きなポイントとなる。そこで、最近では、専用の測定機器を用いて皮膚温度、水分量等の皮膚特性を測定し、その測定結果にもとづいてその肌に向かうと思はれる化粧品をアドバイスすることが行われている。しかし、測定結果のみを情報源としてアドバイスをし、例えばその人が自分の肌に対して感じていること、あるいはその時点で最も感じ

たい肌のトラブル等を無視して一方的なアドバイスを全行うことになりかねない。顧客に不満感を与えてしまうことがあった。また、顧客によっては、カウンセリングを充分に受ける時間がない人や、美容師やエステティシャンに感じ入る人もあり、時間をかけたサービスは経済的となる場合がある。

【0004】 このため、短時間で数個までの効能の化粧品アドバイスをし、しかもそのアドバイスを一方的に受けるようなサービスを行うことが望まれるが、全量に分配する膨大な数の化粧品販売店の各販売員に対し、メーカーが上記課題に応える人材教育を行うことは多大な労力と時間を要する。

【0005】 この発明は、このような事情に鑑みられたもので、化粧品等の、効能が近似的な複数商品から、顧客のニーズに合った的確な商品を、短時間で、しかも顧客の効能性をも満足させるような方法で選択し推奨することのできる商品価値判断シートの提供をその目的とする。

【0006】

39 【課題を解決するための手段】 上記の目的を達成するため、この発明の商品価値判断シートは、効能の異なる複数の商品のうち、いずれか一つを選択するために用いられる商品価値判断シートであって、操作性からなり、その表面に、上記複数の商品のそれぞれα（αは正の数）個ずつ抽出してなるβ個の課題を、商品一毎につきα（αは正の数）個ずつ抽出してなるβ個の課題が、ランダムに配置で表示された課題表示シート（A）と、上記課題表示シート（A）の課題表示部に重ねられ、表面部から押圧を受けることで課題部が変色し、課題表示シート（A）から裏がえれると上記変色が消えて元に戻るよう設定された透明な遮圧変色シート（B）と、上記課題表示シート（A）に重ねられた遮圧変色シート（B）の上からさらに重ねられ、上記遮圧変色シート（B）を透して見え入課題表示シート（A）の各課題の表示位置とそれぞれ異なる位置に課題チェック部が設けられ、各課題チェック部に、その課題を解決し得る効能を備えた商品の種類を示す象徴記号がそれぞれ付されている透明な商品特定シート（C）とからなるという構成である。

【0007】

40 【発明の実施の形態】 以下に、この発明の実施の形態について説明する。

【0008】 図1は、この発明の商品価値判断シート（以下、単に「診断シート」と略す）を、化粧品であるファンデーションの包装に適用した一実施の形態を示している。

【0009】 この診断シートは、効能の異なる複数のファンデーションの中から、顧客に最適なファンデーションを選択して推奨するために用いられるもので、裏面に課題表示部1と表側に設けられた課題表示シートAと、上記

図2に示される感圧発色シート2と、さらにその上に重ねられる商品特定シート3とで構成されている。なお、上記感圧発色シート2の左縁部は、上記課題表示部1の左縁部に、ヒートシールにより一体的に貼り付けられている(図2中破線で示す部分がヒートシール部分)。また、上記課題表示シート2と商品特定シート3とは、その左上に設けられた穴21、31に、リング状の紙14を挿通させることによって連結されるようになっている。

【0010】図1より詳しく説明すると、上記課題表示シート2は、厚み2mmの硬い厚紙4が台紙として用いられており、その上部に、この課題セットを適用するファンテーションのキャッチウレリ等が印刷されている。そして、その下には、上記ファンテーションの使用時に解放した課題(この例では2個の課題)をそれぞれ課題表示部1の課題表示部1が隠れている。この課題表示部1は、図1に示すように、白色の紙質ビニールシート2(厚み0.2mm)を黒色の紙質ビニールシート3(厚み0.5mm)と重ね、その間をヒートシールによって固着一体化し、さらに、これを厚紙4の表面に接着して形成したものである。そして、上記紙質ビニールシート3の表面に、2個の課題(図1に示す)が、それぞれ横方向に貼られた状態で、横4個、横2個に並ぶ配列で表示されている。なお、上記課題は、この課題シート3によって隠蔽、隠蔽しようとする課題のファンテーションを用いて隠蔽もしくは隠蔽することの出来る課題であり、一つのファンテーションごとに4個の課題が抽出されている。そして、その配列は、ファンテーションの横線にかかわらず、ランダムに配列されている。

【0011】また、上記課題表示部1に重ねられる感圧発色シート2は、厚み0.2mmの透明な紙質ビニールシートからなり、蛍光顔料によってピンク色に着色されている。この感圧発色シート2は、上記課題表示シート2の課題表示部1に重ねた状態で、上から押圧して課題表示部1の表面に密着させると、図2において実線4で示すように、その押圧部分においてのみ、色が発光色14に発光する。シート2に含有されている蛍光顔料の色がその部分だけ発光発色するように見える。他の部分は、紙質4で示すように発光散乱するため発光発色は見えない。したがって、上記感圧発色シート2から透かして見える課題を、その上から指で押さえて押圧すると、図2に示すように、その部分が発光発色して白く付くようになる。なお、この印刷は、上記感圧発色シート2をめぐってシート1と課題表示部1の密着を解除すれば簡単に消える。

【0012】一方、商品特定シート3(図1に示す)は、透明な発光シート3にヒートシール21(厚み0.2mm)からなり、その表面には、1個の、横方向なる課題チェック部10が設けられている。上記課題チェック部10

は、この商品特定シート3を、上記課題表示シート2および感圧発色シート2の上に重ねた場合に、上記課題表示シート2に示された課題と一致する課題となるように配置されている。そして、各課題チェック部10には、その課題チェック部10が覆われる課題外に示された事項を解決もしくは回避する機能を備えたファンテーションの横線を示す課題記号11が、それぞれ付されている。ちなみに、「B」は、化整くすれせず、穴が通って全く通らないという機能を有する第1のタイプ

10のファンテーションを示す課題記号であり、「S」は、化整くすれせず、穴が通って穴が通らないことを防止するという機能を有する第2のタイプのファンテーションを示す課題記号である。また、「M」は、横線と縦線とを併用し、穴が通らないことを防止するという機能を有する第3のタイプのファンテーションを示す課題記号である。

【0013】なお、上記課題表示シート2の裏面には、図4に示すように、上記図1〜図3の、各課題のタイプのファンテーションの効用をわかりやすく説明する説明図12が表示されている。

【0014】上記課題シート2を用い、化粧品販売員は、店頭もしくは訪問販売先において、図5に示すようにして顧客に対し最適なファンテーションの提案を行うことができる。すなわち、まず上記課題表示シート2の課題表示部1の課題外に、課題表示シート2の課題表示部1に感圧発色シート2を貼った状態で、この部分を顧客に提示する。そして、顧客が自分の顔について解決したい、あるいは回避したいと思っている課題を、上記課題表示部1に示されている1個の課題の中から課題数(この例では4個)を選択する。選択は、図5に示すように、顧客自身が自分の指で、感圧発色シート2の上から該当する課題を指し、その部分を発光発色させることによって行う。このようにして、4個の課題に印を付けさせる。

【0015】つぎに、図5に示すように、裏に貼られている商品特定シート3を課題外に、課題表示シート2の上に重ねる。これにより、図5に示すように、顧客が選択して印を付けた4個の課題と、どのファンテーションを用いたかは解決もしくは改善できる課題であるかを、一目で判断することが出来る。この際の場合、「B」が4個あることから、課題の課題を解決もしくは改善するには、「B」が、すなわち第1のタイプのファンテーションを用いることが最適であることが分かる。そこで、化粧品販売員は、上記課題シート2全体をそのまま裏に貼り、課題表示シート2の裏面に表示されているファンテーションの説明図12(図4参照)を表示した。顧客に、最適なファンテーションを説明し、推奨する。このようにして、顧客にとって最適なファンテーションを、最短時間で選択し、推奨することができる。なお、図5の「B」が4個、「M」が1個、というように分け

た場合には、個数の多い方を最優先のものとする。また、紙張が2個ずつに分かれた場合には、具体的なカウンタリングを行った上で最優先のものを優先。

【0016】なお、上記顧客への送達、カウンタリング等が終了した時点で、上記色指定シートBを上に持ち上げて評価表が部1の表層を剥がすことにより、表層を消し、未使用の表層に留まることができる。したがって、この評価シートは、顧客ごとに繰り返し使用することができる。

【0017】このように、上記評価シートによれば、評価表示シートAと、商品特定シートCとが別々で、顧客が選定する段階では、その選定が、どの商品にどのようなかきかわからない状態で選定するため、顧客において、利用の結論に対する興味が減り、選択行為が非常に楽しいものとなる。しかも、上記選択行為は、色指定シートBを指し示す態様によって選定した上に印をつける、という無難的な動作を行うため、一方的に開示されるような圧迫感がなく、商品に対し積極的な関心を寄せることができるという利点を有する。したがって、販売店は、その結果から、最適なファンデーションを推薦するだけでなく、その時点で顧客の反応を見た上で、さらに個への手入れ方法や他の化粧品の種類等、カウンタリングを提案させることができる。また、上記のように、この評価シートは、色指定シートBを剥がすだけで、簡単に未使用の状態に戻ることができるため、異なる顧客に対し、繰り返し使用することができるが経済的である。しかも、顧客にとって、自分の選定というごくプライベートな情報で、その場で白紙に戻られ、販売店の平元に蓄積されないため、自分のプライバシーが守られているという安心感を得ることができる。

【0018】なお、上記実施例では、評価表示シートにおける課題名の数は、商品（ファンデーション）の種類につき1個としたが、その数は適宜に設定することができる。なかでも、商品の種類につき1個に設定することがある。また、選択数が少なくなると最適な商品を選ぶことが容易でなく、先に選択数が多いと、顧客が選択するのみに手間や心理的負担が生じるからである。そして、上記課題名の配列は、上記実施例のように縦に何個、横に何個、という規則による配置はなく、例えば何個に示すように、横書きで上下に隣接させることもよい。この場合、各課題名の右側には、欄外等のマークを付し、この部分に、上から重ねた色指定シートBを介して印を押しつけるようにする。そして、この上に、商品特定シートCの課題チェック欄2をを重ねることにより、印を付した課題名を解決し、又は改善するためには、どの商品が最適かを判断する。なお、上記商品特定シートには、課題表示部1の全面に書く必要はなく、【0019】のように、課題名の部分（マーク2の部分）と課題チェック部2とを重複し合えば足りる。

【0019】また、課題表示シート、色指定シート

および商品特定シートCの材質や厚み等も、上記実施例に照らして適宜のものを選択することができる。ただし、色指定シートBおよび商品特定シートCは、これらを重ねた状態で、その下の課題Bを透かして見る必要があるため、これらは透明シートでなければならぬ。

【0020】さらに、上記実施例は、評価シートを、化粧品のファンデーション推奨に適用したものであるが、商品に、このような化粧品に限らず、飲料や飾物の選定を有し用途が重なって分かれているような商品であればどのような商品に適用しても差し支えない。例えば遊樂料や遊樂具、遊樂機料等に用いることが好適である。

【0021】つぎに、実施例について説明する。

【0022】
【実施例1】図1に示す評価シートを用い、実際に化粧品販売店に、専門モニター10人に対してファンデーションの推奨を行なった。その結果、モニター10人とも、最適なファンデーションを、自分の顔に合わせながら何回かで選択することができ、「お肌がもてろ」と

【0023】

【発明の要旨】以上のよう、この発明の評価シートは、評価表示シートと、商品特定シートとが別々で、その選定が、どの商品にどのようなかきかわからない状態で、顧客に選定させるため、顧客において、結論に対する興味が減り、選択行為が非常に楽しいものとなる。しかも、上記選択行為は、色指定シートBを指し示す態様によって選定した上に印をつける、という無難的な動作を行うため、顧客にとって、一方的に開示されるような圧迫感がなく、商品に対し積極的な関心を寄せることができるという利点を有する。したがって、販売店は、その結果から、最適なファンデーションを推薦するだけでなく、その時点で顧客の反応を見た上で、さらに個への手入れ方法や他の化粧品の種類等、カウンタリングを提案させることができる。また、この評価シートは、色指定シートBを剥がすだけで、簡単に未使用の状態に戻すことができるため、異なる顧客に対し、繰り返し使用することができるが経済的である。しかも、顧客にとって、自分の選定というごくプライベートな情報で、その場で白紙に戻られ、販売店の平元に蓄積されないため、自分のプライバシーが守られているという安心感を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一次実施例の構成を示す説明図である。

【図2】上記実施例における色指定シートの説明図である。

【図3】上記実施例における課題名の説明図である。

【図4】上記実施例における課題表示シート上の画面の説明図である。

【図5】上記実施例の使用態様の説明図である。

7

【図6】上記実施例の使用態様の説明図である。

【図7】この発明の他の実施例の構成を示す説明図である。

【符号の説明】

1 課題表示部

2 厚紙

3 収容ビニールシート

5 課題

10 課題チェック部

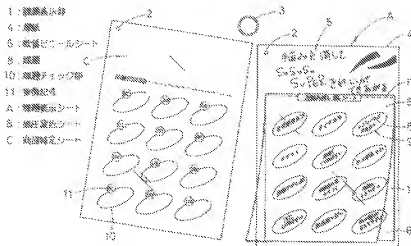
11 集積記号

A 課題表示シート

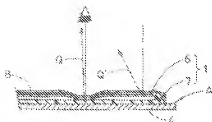
B 集積記号シート

C 課題特定シート

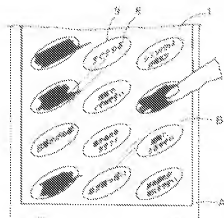
【図1】



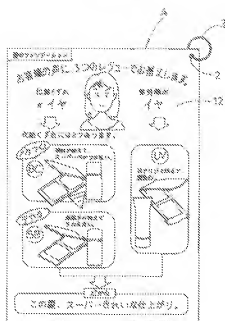
【図2】



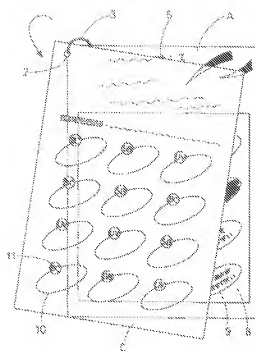
【図3】



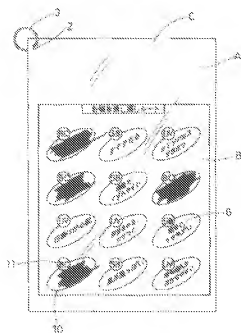
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

